

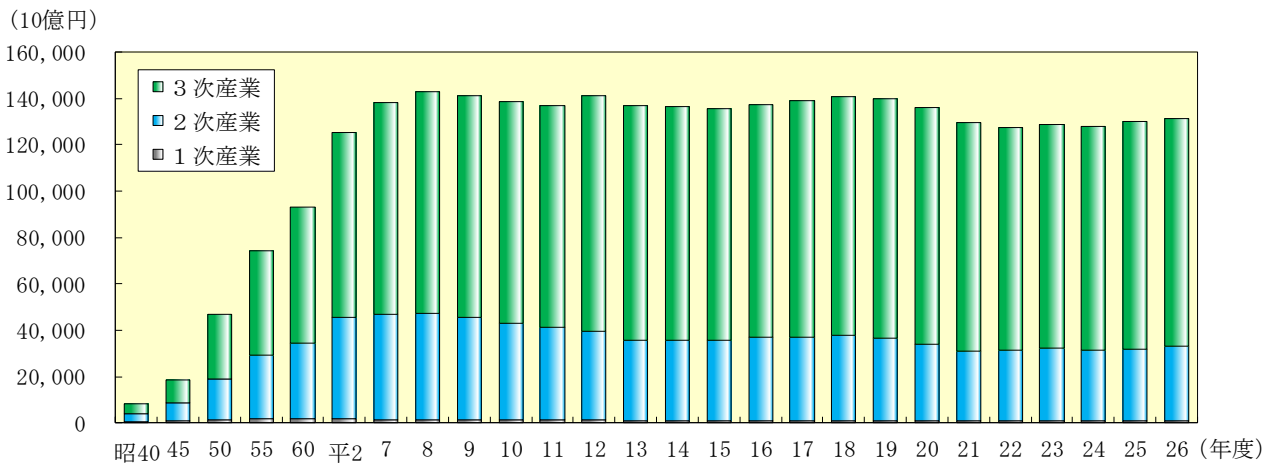
2 産業の現況

2.1 関係13府県の産業

関係13府県の昭和40年度から平成26年度の県内総生産額の推移を図2-1に示す。

平成26年度の関係13府県の県内総生産額は、1,330,412億円であった。昭和40年度からこの50年間ほどで額にして約120兆円、約16倍に増加している。昭和40年度から平成2年度までの増加が著しく、その後、ほぼ横ばいで推移している。

産業別構成比は、一次産業は昭和50年度から、二次産業は平成8年度から減少傾向にあり、その分、三次産業の構成比が増加の一途をたどっている。平成26年度の関係13府県の産業別生産額構成比をみると一次産業が0.7%、二次産業が24.6%、三次産業が74.7%となっている。



注) 昭和40年度以降、45年度は県内純生産額

出典：昭和45年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」

昭和50年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」

図2-1 関係13府県の県内総生産額の推移

表2-1 関係13府県の県内総生産額

(単位：10億円)

年度 府県名	昭和40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	22	25	26
京都府	599	1,352	3,061	5,198	6,851	8,588	9,455	9,933	9,895	9,373	9,825	10,054
大阪府	2,612	6,016	13,676	21,423	26,162	36,524	40,125	40,936	38,570	36,384	37,315	37,934
兵庫県	1,219	2,745	6,494	10,225	13,232	18,291	20,638	19,933	19,141	18,346	19,233	19,788
奈良県	156	370	973	1,594	2,260	3,244	3,574	3,868	3,762	3,552	3,521	3,541
和歌山県	273	530	1,324	1,925	2,401	2,836	3,143	3,306	3,516	3,503	3,583	3,579
岡山県	436	1,088	2,448	3,850	5,064	6,647	7,359	7,111	7,244	7,065	7,273	7,243
広島県	635	1,515	3,991	6,042	7,540	10,244	10,963	11,185	11,996	10,808	10,843	11,238
山口県	383	821	2,073	3,154	3,962	5,021	5,559	5,733	5,841	5,752	5,779	5,969
徳島県	167	367	855	1,345	1,636	2,220	2,552	2,628	2,719	2,820	2,937	3,012
香川県	199	481	1,247	2,001	2,367	3,254	3,723	3,786	3,656	3,571	3,647	3,672
愛媛県	340	737	1,652	2,538	3,269	4,148	4,845	4,998	4,845	4,888	4,777	4,756
福岡県	961	2,316	5,741	9,666	11,185	14,945	16,790	17,445	17,962	18,042	18,190	18,112
大分県	223	487	1,262	2,254	2,682	3,641	4,205	4,595	4,436	4,293	4,182	4,143
関係13府県計	8,203	18,825	44,798	71,215	88,611	119,602	132,931	135,456	133,583	128,397	131,105	133,041

注) 昭和40年度以降、45年度は県内純生産額

出典：昭和45年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」

昭和50年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」

2 産業の現況

表 2-2 関係 13 府県の産業別生産額構成比

(単位：%)

府県名	昭和40			45			50			55			60			平成2		
	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業
京 都 府	4.3	38.1	57.6	2.4	40.1	57.5	2.4	36.7	60.9	1.5	35.6	63.0	1.1	36.2	62.7	0.7	34.3	65.0
大 阪 府	0.8	43.6	55.6	0.4	46.2	53.4	0.3	36.8	62.9	0.2	35.4	64.4	0.2	33.3	66.5	0.1	30.9	69.0
兵 庫 県	4.7	49.8	45.5	3.0	48.9	48.1	2.4	40.9	56.7	1.7	43.7	54.6	1.3	40.3	58.3	1.0	41.3	57.7
奈 良 県	18.4	30.6	51.0	10.6	41.8	47.6	6.9	38.6	54.6	4.7	42.3	53.0	2.9	41.0	56.2	2.0	40.7	57.4
和 歌 山 県	16.2	39.6	44.2	13.3	39.8	46.9	6.7	46.1	47.2	5.5	41.3	53.2	4.7	40.0	55.3	4.9	38.1	56.9
岡 山 県	12.1	37.7	50.2	6.6	45.1	48.3	5.5	42.8	51.8	3.4	42.0	54.6	2.7	42.5	54.8	1.9	45.0	53.1
広 島 県	9.5	41.0	49.5	5.2	40.4	54.4	3.3	35.9	60.8	2.0	35.1	62.9	1.8	31.7	66.5	1.2	35.6	63.2
山 口 県	14.5	37.5	48.0	9.9	43.4	46.7	6.9	40.7	52.4	3.9	39.6	56.5	3.1	38.3	58.6	2.4	40.9	56.7
徳 島 県	20.7	22.6	56.7	16.0	29.8	54.2	12.5	34.2	53.4	7.7	34.1	58.2	6.7	31.6	61.7	4.8	35.1	60.1
香 川 県	15.6	27.5	56.9	9.2	36.2	54.6	6.7	35.1	58.3	4.7	34.9	60.4	4.0	33.4	62.5	2.8	32.8	64.4
愛 媛 県	17.1	33.9	49.0	12.9	37.3	49.8	9.5	41.8	48.7	7.1	38.5	54.4	6.3	35.8	57.9	4.9	37.1	58.0
福 岡 県	8.7	33.4	57.9	5.6	35.0	59.4	3.9	31.1	65.1	2.3	30.8	66.9	2.1	28.7	69.2	1.4	28.9	69.7
大 分 県	22.6	25.4	52.0	13.9	31.2	54.9	10.3	30.0	59.7	6.7	37.2	56.1	6.1	33.6	60.3	4.8	38.4	56.9
関 係 13 府 県 計	7.4	40.0	52.6	4.7	42.6	52.7	3.4	37.3	59.3	2.2	36.9	60.9	1.9	35.0	63.1	1.4	35.0	63.6

府県名	7			12			17			22			25			26		
	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業	1次産業	2次産業	3次産業
京 都 府	0.6	32.1	67.3	0.6	30.0	69.4	0.5	26.7	72.8	0.4	22.9	76.7	0.4	25.5	74.1	0.4	26.7	72.9
大 阪 府	0.1	26.5	73.4	0.1	20.7	79.2	0.1	20.9	79.0	0.1	18.7	81.2	0.1	17.8	82.1	0.1	18.6	81.3
兵 庫 県	0.8	43.2	56.0	0.7	34.8	64.5	0.5	28.7	70.8	0.6	26.5	72.9	0.5	27.1	72.3	0.5	27.4	72.1
奈 良 県	1.6	33.1	65.3	1.0	28.3	70.7	0.9	25.2	73.9	0.6	18.3	81.1	0.7	20.6	78.8	0.6	21.3	78.1
和 歌 山 県	4.3	36.8	58.9	3.2	34.0	62.8	2.2	34.8	63.0	1.9	32.5	65.6	1.9	34.5	63.6	1.8	32.5	65.7
岡 山 県	1.5	43.9	54.6	1.2	33.8	65.0	1.1	33.8	65.1	1.0	30.5	68.5	1.0	31.6	67.4	1.0	30.8	68.2
広 島 県	1.1	31.9	67.1	0.8	27.7	71.5	0.7	30.8	68.5	0.8	26.8	72.4	0.8	27.0	72.3	0.7	28.9	70.4
山 口 県	1.8	39.2	59.0	1.2	35.9	62.9	1.0	36.6	62.4	0.9	36.5	62.6	0.7	36.8	62.4	0.6	38.8	60.6
徳 島 県	3.7	34.7	61.6	2.9	30.6	66.5	2.5	30.0	67.5	2.1	31.1	66.8	2.1	32.1	65.8	1.9	33.0	65.1
香 川 県	2.0	29.8	68.2	1.6	25.2	73.2	1.6	22.4	76.0	1.6	22.5	75.9	1.3	24.8	74.0	1.2	24.4	74.4
愛 媛 県	3.8	36.2	60.0	2.8	30.6	66.6	2.4	26.1	71.5	2.2	24.8	73.0	2.1	24.6	73.3	1.9	25.2	72.9
福 岡 県	1.1	26.1	72.8	0.9	22.5	76.6	0.9	20.0	79.1	0.8	21.2	78.0	0.8	19.1	80.2	0.7	19.4	79.9
大 分 県	3.7	37.4	58.9	2.7	34.4	62.9	2.3	30.1	67.6	2.2	29.0	68.8	2.2	29.7	68.1	2.2	29.2	68.6
関 係 13 府 県 計	1.1	32.7	66.2	0.9	27.2	71.9	0.8	25.8	73.4	0.7	23.9	75.4	0.7	24.0	75.3	0.7	24.6	74.7

注) 産業構成比は、県内総生産における割合。但し、昭和40年度、45年度は県内純生産における割合。

それぞれの構成比は、以下の出典をもとに各府県各年度での構成比の合計が100%になるよう補正した。

出典：昭和45年度以前：「県民所得統計年報（内閣府編）」より作成

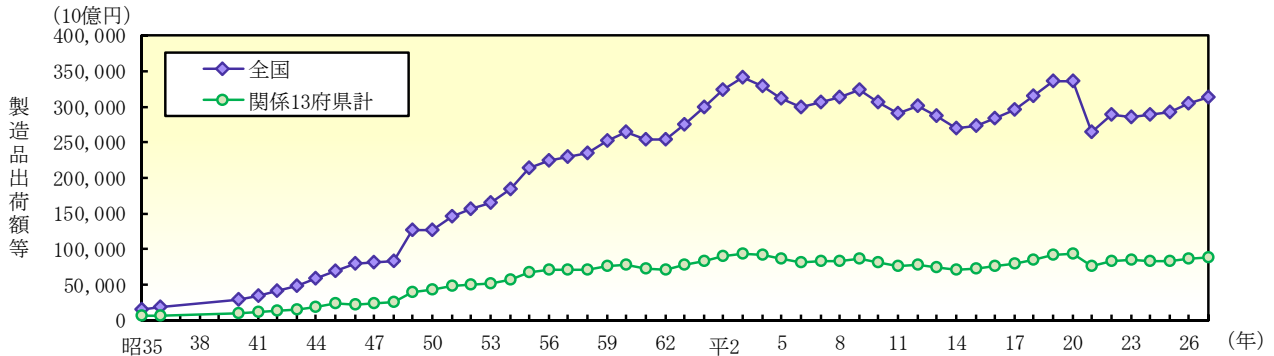
昭和50年度以降：「県民経済計算年報（内閣府編）」より作成

2 産業の現況

2.2 工業等の動向

瀬戸内海は、工業用地に適した遠浅の海岸が多く、背後に大都市を抱えていたことから工場の立地に適しており、高度経済成長期にはコンビナートの形成を軸に重化学工業化が推進された。

瀬戸内海沿岸地域における工業出荷額の全国に占める比重は低下しているものの鉄鋼業といった主要基幹産業の生産能力はなお40%以上を占めている。関係13府県における製造品出荷額等の推移を図2-2に示す。



注) 1. 昭和55年までは従業員1人以上の事業場の出荷額であるが、昭和56年以降は4人以上の事業場の出荷額である。

2. 平成6年の兵庫県については、阪神・淡路大震災発生に伴い、被災地の一部においては調査票の回収が困難で回収されたものみの数値。

3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである

平成18年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額

平成19年以降：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理工賃収入等）

平成27年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額

出典：平成26年以前：「工業統計表（産業編）」（経済産業省）

平成27年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）

図2-2 関係13府県における製造品出荷額等の推移

表2-3 関係府県別製造品出荷額等一覧表

(単位：10億円)

年	昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	23	24	25	26	27
全 国 計	15,579	29,489	69,035	127,521	214,700	265,321	323,373	306,030	300,478	295,346	284,969	288,728	292,092	305,140	313,129
京 都 府	332	616	1,430	2,395	3,903	5,119	6,289	6,014	5,886	4,870	5,038	4,646	4,561	4,815	5,322
大 阪 府	2,096	3,590	7,834	12,266	19,052	22,042	24,553	20,889	18,020	16,302	16,493	16,023	16,024	16,529	16,686
兵 庫 県	1,156	1,972	4,394	7,467	11,211	12,958	15,424	14,403	14,070	13,478	14,357	14,347	14,027	14,888	15,446
奈 良 県	58	129	422	801	1,400	1,903	2,490	2,532	2,418	2,156	1,756	1,758	1,848	1,897	1,845
和 歌 山 県	201	388	733	1,837	2,620	2,613	2,501	2,256	2,265	2,780	2,942	2,867	2,972	2,995	2,648
岡 山 県	232	509	1,465	3,280	5,757	6,602	6,868	6,863	6,370	7,296	7,734	7,628	7,674	8,256	7,789
広 島 県	387	846	2,029	4,017	6,005	6,962	8,931	7,716	7,218	7,787	8,735	8,343	8,556	9,568	10,343
山 口 県	350	607	1,260	2,609	4,353	4,790	4,962	4,897	4,838	6,025	6,270	6,086	6,798	6,520	6,303
徳 島 県	55	112	275	580	918	1,170	1,455	1,465	1,505	1,606	1,640	1,680	1,712	1,784	1,698
香 川 県	83	171	486	1,088	1,957	2,064	2,426	2,387	2,146	2,160	2,885	2,985	2,284	2,371	2,492
愛 媛 県	196	370	841	1,697	2,732	3,154	3,307	3,581	3,467	3,435	4,344	4,030	4,068	4,139	4,095
福 岡 県	647	962	1,858	3,551	5,834	6,512	7,711	7,816	7,368	7,752	8,126	8,334	8,193	8,434	9,216
大 分 県	82	143	369	938	2,105	2,126	2,587	2,742	3,087	3,672	4,199	4,261	4,383	4,559	4,270
関係13府県計	5,875	10,415	23,396	42,526	67,847	78,015	89,504	83,561	78,658	79,319	84,519	82,988	83,100	86,755	88,153
(B)/(A) %	37.7	35.3	33.9	33.1	31.6	29.4	27.7	27.3	26.2	26.8	29.7	28.7	28.4	28.4	28.2

注) 1. (B) / (A) %は (13府県 / 全国) × 100

2. 昭和55年までは従業員1人以上の事業場の出荷額であるが、昭和60年以降は4人以上の事業場の出荷額である。

3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである。

平成18年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額

平成19年以降：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理工賃収入等）

平成27年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額

4. 数値は億単位で四捨五入してある。

出典：平成26年以前：「工業統計表（産業編）」（経済産業省）

平成27年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）

2 産業の現況

表 2-4 主要業種別製造品出荷額等一覧表

(単位：億円)

		昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	23	24	25	26	27
食料品	全国 (A)	19,266	38,844	71,506	151,305	225,126	291,502	330,739	347,314	348,210	323,435	334,203	339,174	344,485	355,328	373,913
	瀬戸内海関係(B)	6,245	11,590	23,283	45,678	64,397	82,203	94,468	97,544	92,055	83,034	90,973	92,787	89,466	91,259	97,615
	(B)/(A)%	32	30	33	30	29	28	29	28	26	26	27	27	26	26	26
繊維工業	全国 (A)	17,415	26,023	43,899	64,573	81,053	80,870	78,381	42,301	30,081	21,087	39,556	39,228	37,679	38,223	35,941
	瀬戸内海関係(B)	6,121	9,108	15,525	23,318	30,508	29,545	27,749	14,208	9,978	8,411	14,807	14,225	13,810	14,013	13,017
	(B)/(A)%	35	35	35	36	38	37	35	34	33	40	37	36	37	37	36
パルプ 紙 紙加工品	全国 (A)	6,007	11,178	22,696	42,102	67,993	73,889	88,117	84,988	79,339	70,892	68,565	68,148	67,411	69,744	71,018
	瀬戸内海関係(B)	1,894	3,489	6,914	12,722	20,104	22,098	27,117	26,495	23,006	20,940	20,450	19,512	19,411	20,358	19,880
	(B)/(A)%	32	31	30	30	30	30	31	31	29	30	30	29	29	29	28
化学工業	全国 (A)	14,636	26,140	55,402	104,381	179,787	205,524	235,029	233,625	237,622	250,271	263,512	260,379	274,092	281,230	283,269
	瀬戸内海関係(B)	6,619	12,351	23,868	44,332	71,941	80,441	87,996	84,625	84,071	89,165	91,217	92,788	96,437	99,073	99,609
	(B)/(A)%	45	47	43	42	40	39	37	36	35	36	35	36	35	35	35
石油製品 石炭製品	全国 (A)	3,716	8,193	17,911	75,721	151,977	129,479	82,975	76,352	94,336	134,293	165,458	170,773	176,756	186,591	142,727
	瀬戸内海関係(B)	1,890	3,207	7,005	31,869	60,715	51,766	32,031	31,744	38,895	57,057	79,143	76,355	75,261	73,259	33,655
	(B)/(A)%	51	39	39	42	40	40	39	42	41	42	48 ^{注4)}	45 ^{注4)}	43 ^{注4)}	39	24 ^{注5)}
鉄鋼業	全国 (A)	16,517	26,836	65,648	113,063	178,956	177,543	182,687	140,727	119,273	168,964	186,656	180,121	179,053	192,022	175,527
	瀬戸内海関係(B)	8,995	14,083	34,958	60,608	87,621	87,666	85,590	65,457	55,021	80,194	92,159	86,282	87,497	93,970	86,546
	(B)/(A)%	54	52	53	54	49	49	47	47	46	47	49	48	49	49	49

注) 1. 瀬戸内海関係は13府県の計

2. 昭和55年までは従業員1人以上の事業場の出荷額であるが、昭和60年以降は4人以上の事業場の出荷額である。

3. 「食料品」は「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」とを合計したものである。

4. 平成23年～平成25年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、徳島県の秘匿措置分を含まない値である。

5. 平成27年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、大分県の秘匿措置分を含まない値である。

出典：平成26年以前：「工業統計表（産業編）」（経済産業省）

平成27年：「経済センサス - 活動調査」（総務省・経済産業省）



注) 平成29年12月末現在

出典：各電力会社のホームページより作成

図 2-3 発電所の位置及び出力

2 産業の現況

瀬戸内海では、高度経済成長期にコンクリート骨材や埋立に使用する膨大な量の海砂利が採取されていたが、海底地形や底質が変化し生態系への悪影響が懸念されたため、平成10年に広島県で採取が全面禁止されたのを皮切りに瀬戸内海沿岸11府県で禁止措置が取られてきた。平成20年度以降の瀬戸内海海域の海砂利採取については、大分県における航路浚渫に伴う海砂利採取以外は実施されていない。

また、これらの産業における基盤となる発電所及び長大橋の設置状況を図2-3、図2-4に示す。

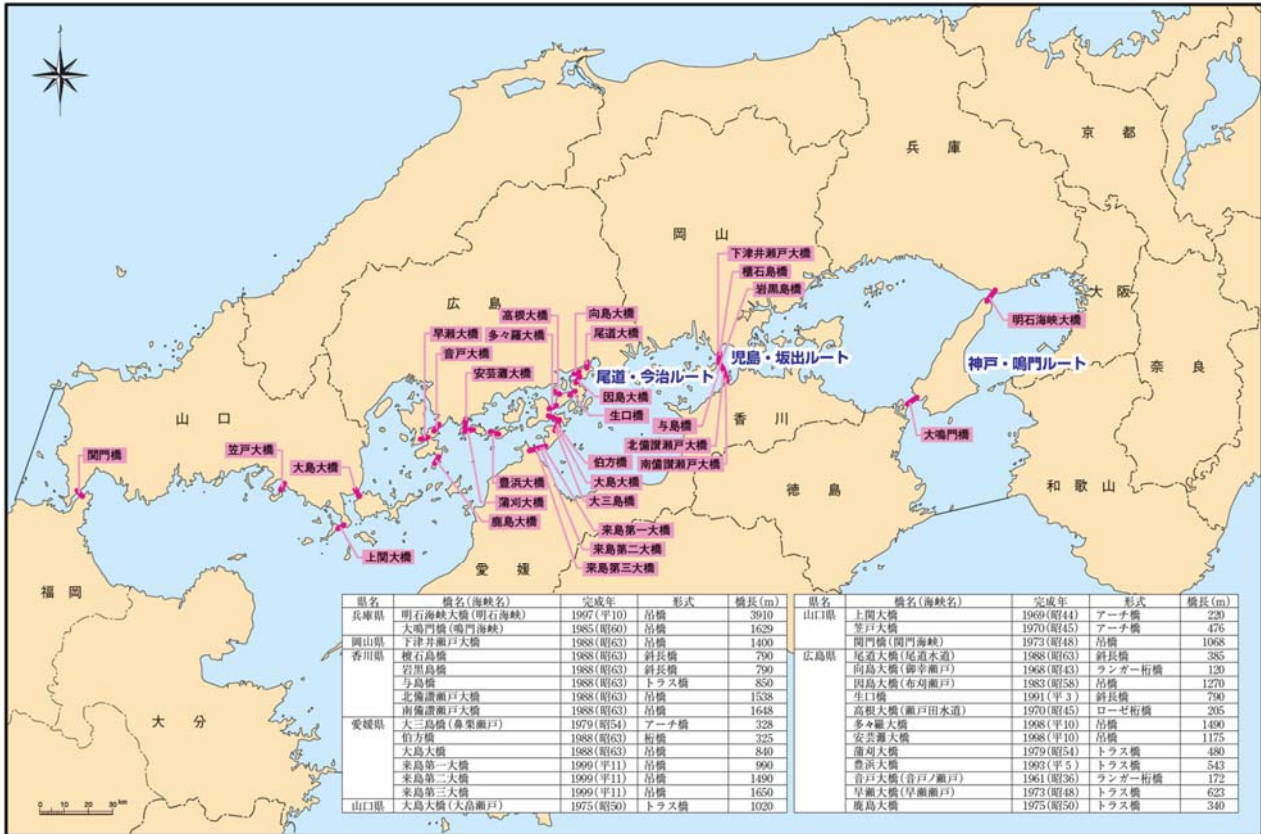
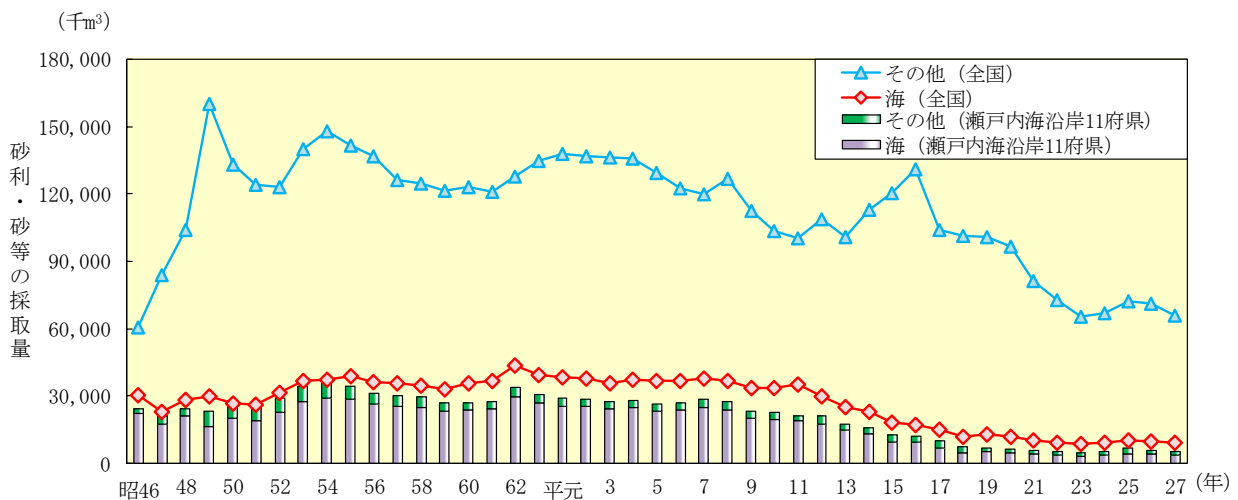


図2-4 瀬戸内海の主な長大橋



注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
 2. 「その他」とは、川、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 出典：砂利採取業務状況報告書集計表(経済産業省、国土交通省、平成29年4月)より作成

図2-5 瀬戸内海における砂利・砂等の採取量の推移

2 産業の現況

表 2-5 瀬戸内海沿岸 11 府県における砂利の採取状況

(単位:千m³)

年度	項目	海			その他			合計		
		11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)	11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)	11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)
昭和46		22,144	30,578	72	2,284	60,428	4	24,428	91,006	27
50		28,133	34,418	82	7,310	119,380	6	35,443	153,798	23
55		28,727	38,936	74	5,586	141,322	4	34,321	180,268	19
58		25,021	34,966	72	4,538	124,611	4	29,558	159,577	19
60		24,093	35,755	67	3,203	123,072	3	27,296	158,827	17
61		24,356	36,821	66	3,191	120,947	3	27,547	157,768	17
62		29,719	43,529	68	4,115	127,637	3	33,834	171,166	20
63		27,056	39,400	69	3,897	134,590	3	30,953	173,990	18
平成元		25,512	38,541	66	3,538	137,871	3	29,050	176,412	16
2		25,491	37,751	68	3,382	136,676	2	28,873	174,427	17
3		24,254	35,802	68	3,445	136,058	3	27,699	171,860	16
4		24,904	37,481	66	3,350	135,937	2	28,254	173,418	16
5		23,179	36,634	63	3,121	129,252	2	26,300	165,886	16
6		23,945	37,091	65	3,000	122,291	2	26,945	159,382	17
7		25,152	37,794	66	3,283	119,941	3	28,435	158,969	18
8		23,913	36,664	65	3,588	127,020	3	27,501	163,684	17
9		20,395	33,429	61	3,009	112,718	3	23,404	146,147	16
10		19,902	33,780	59	2,699	103,696	3	22,601	137,476	16
11		19,281	35,373	55	2,125	100,544	2	21,407	135,917	16
12		17,399	29,957	58	3,678	108,951	3	21,078	138,907	15
13		14,940	25,385	59	2,863	101,123	3	17,805	129,373	14
14		13,213	23,098	57	2,848	113,180	3	16,061	136,278	12
15		9,881	18,125	55	2,834	120,437	2	12,715	138,562	9
16		9,435	17,260	55	2,676	130,844	2	12,111	148,104	8
17		7,072	15,004	47	2,929	103,788	3	10,001	118,792	8
18		4,628	12,003	39	2,651	101,148	3	7,279	113,151	6
19		5,160	13,151	39	1,826	101,044	2	6,985	114,194	6
20		4,931	11,928	41	1,720	96,534	2	6,651	108,462	6
21		4,309	10,295	42	1,674	81,504	2	5,984	91,799	7
22		3,687	9,515	39	1,901	72,634	3	5,587	82,149	7
23		3,420	9,067	38	1,412	65,549	2	4,832	74,616	6
24		3,640	9,166	40	1,503	67,148	2	5,143	76,314	7
25		4,302	10,395	41	2,452	72,292	3	6,753	82,687	8
26		4,311	10,062	43	1,840	71,373	3	6,151	81,435	8
27		3,846	9,471	41	1,536	65,971	2	5,383	75,442	7

- 注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
 2. 「その他」とは、川、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 4. 数値は四捨五入してある。

出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 29 年 4 月）より作成

表 2-6 府県別砂利採取量(平成 27 年度)

(単位：千m³)

項目	大阪	兵庫	和歌山	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	福岡	大分
海	0	0	0	0	0	1,151	0	0	0	2,569	126
その他	137	81	574	116	12	2	265	41	30	122	156
計	137	81	574	116	12	1,153	265	41	30	2,692	282

- 注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
 2. 「その他」とは、川、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 4. 数値は四捨五入してある。

出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 29 年 4 月）より作成

2 産業の現況

2.3 水産業の推移

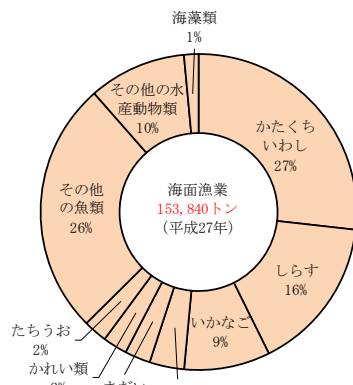
瀬戸内海は瀬戸と灘が交互に連続する多様な地形を有している閉鎖性海域であり、また、多数の河川が流入していることにより栄養塩が比較的豊富であるため、生産性の高い海域である。水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所によると瀬戸内海で確認された魚種数は平成22年（2010年）時点で739種とされている。

平成27年の瀬戸内海^{注1)}における海面漁業魚種別生産量、海面養殖業魚種別生産量の構成を図2-6、図2-7に示す。また、瀬戸内海における昭和40年から漁業生産量及び魚種別生産量の推移を図2-8、図2-9に示す。

平成27年における漁業生産量は約34万トンである。海面漁業生産量は約15万トン、海面養殖業生産量は約18万トンであり、海面養殖業生産量が海面漁業生産量の約1.2倍となっている。

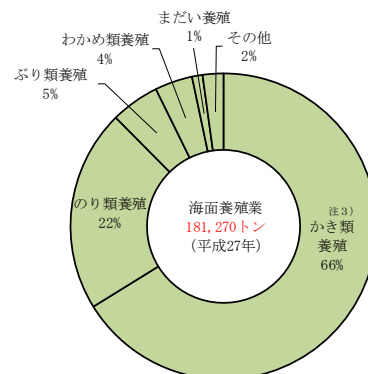
瀬戸内海における漁業生産量及び海面漁業生産量は、昭和60年頃に最大となり、その後減少する傾向にある。この一因として藻場・干潟の減少等により魚介類の生息環境が悪化していることがあげられ、魚種別には「まいわし」、「かたくちいわし」、「いかなご」、「あさり類」の生産量が昭和60年代から急減している。海面養殖業生産量は昭和63年頃までは増加傾向にあり、近年では、概ね横ばいに推移している。

注) 漁業法による瀬戸内海の範囲は、瀬戸内海環境保全特別措置法によって定められた海域から、豊後水道、響灘を除く海域となっている。



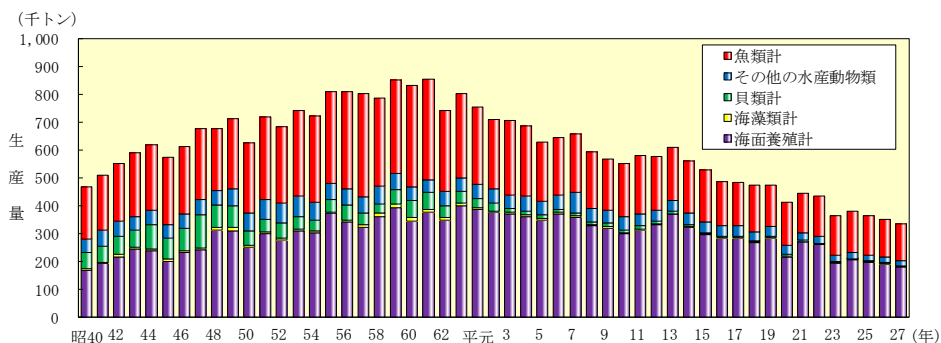
注) 四捨五入の関係で各項目の%の合計は100%とならない。

図2-6 海面漁業魚種別生産量構成



注) 1. 秘匿措置分の兵庫県を除く瀬戸内海沿岸10府県の値である。
2. 兵庫県以外の秘匿措置分については「その他」にまとめて記載した。
3. 「かき類養殖」は「むき身」を含まない値である。

図2-7 海面養殖業魚種別生産量構成



注) 1. 平成23、24、26、27年の「海面養殖計」は兵庫県の秘匿措置分を含まない値である。
2. 平成25年の「海面養殖計」は兵庫県と和歌山県の秘匿措置分を含まない値である。

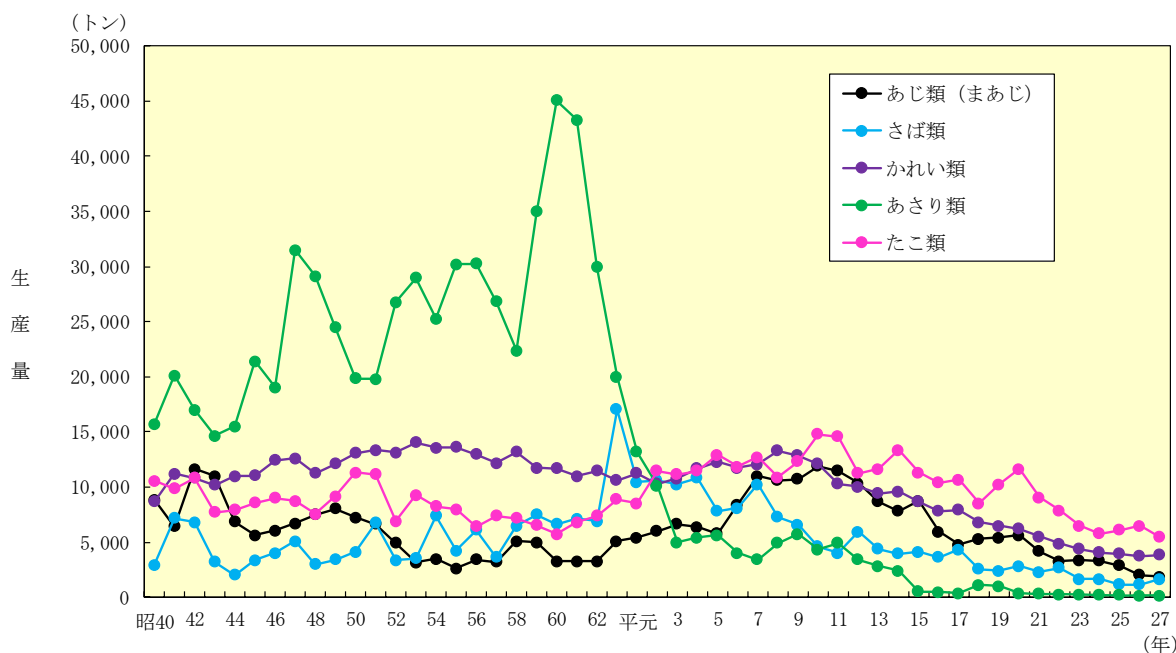
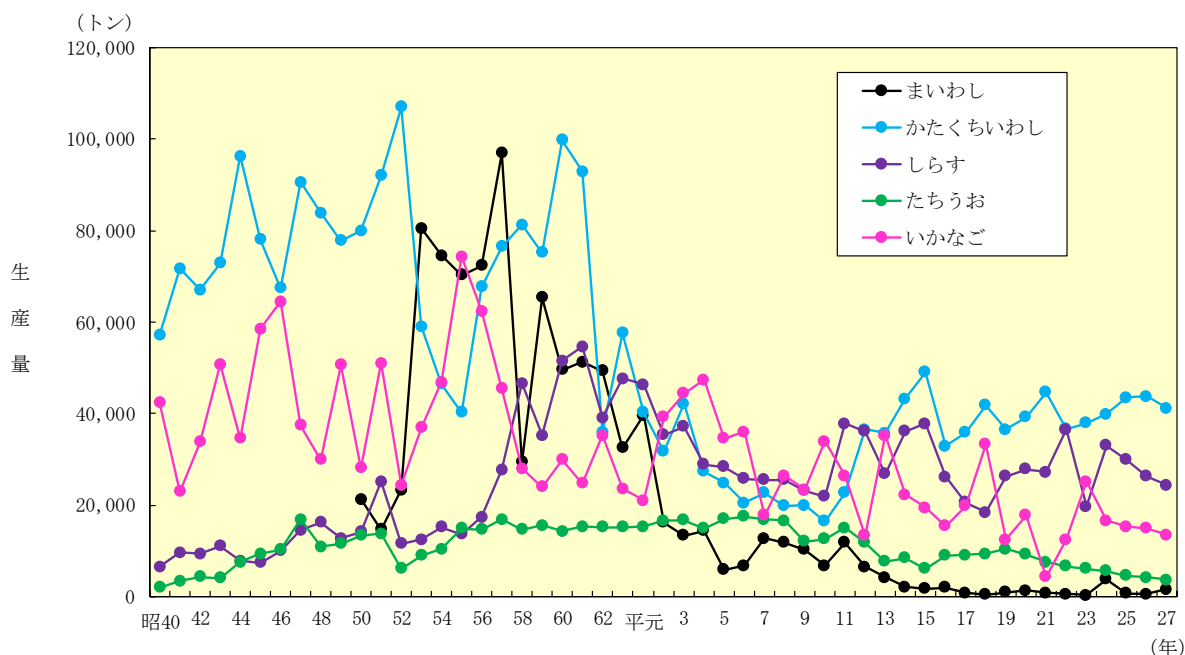
出典：平成17年以前：「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向」（農林水産省中国四国農政局統計部）

平成18年、19年：農林水産省近畿農政局統計部資料
農林水産省中国四国農政局統計部資料
農林水産省九州農政局統計部資料

平成20年以降：農林水産省資料

図2-8 瀬戸内海における漁業生産量の推移

2 産業の現況



- 注) 1. 「あじ類(まあじ)」は、昭和52年までは「あじ類」、昭和53年以降は「まあじ」となっている。
 2. 平成20年の「まいわし」は、広島県の秘匿措置分を含まない値である。
 3. 平成21年の「まいわし」、「かたくちいわし」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
 4. 平成24年の「あじ類(まあじ)」、「さば類」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
 5. 平成25年の「さば類」は、岡山県の秘匿措置分を含まない値である。
 6. 平成27年の「しらす」は、徳島県の秘匿措置分を含まない値である。

出典：平成17年以前：「瀬戸内海区及び太平洋南区における漁業動向」（農林水産省中国四国農政局統計部）
 平成18年、19年：農林水産省近畿農政局統計部資料
 農林水産省中国四国農政局統計部資料
 農林水産省九州農政局統計部資料
 平成20年以降：農林水産省資料

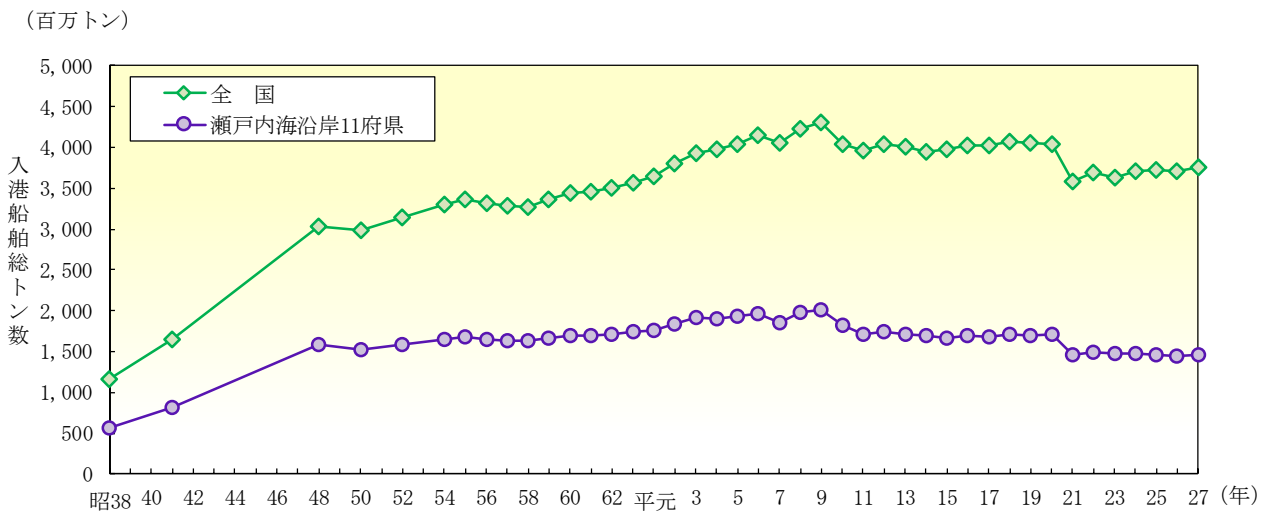
図2-9 瀬戸内海における魚種別生産量の推移

2 産業の現況

2.4 海運等の現況

瀬戸内海における平成 27 年の入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量は、全国の約 39～41%の割合を占めている（図 2-10、2-11）。入港船舶総トン数、港湾貨物の取扱量はともに、昭和 38 年から昭和 48 年にかけて 2 倍以上に急増しその後、ほぼ横ばいで推移している。

また、平成 28 年の主要狭水道における 1 日平均の通航船舶隻数は、瀬戸内海で最も多かった明石海峡で 650 隻となっており、東京湾口の浦賀水道における 458 隻に比較して多い（図 2-13）。府県別入港船舶・貨物利用状況と瀬戸内海の港湾・航路を表 2-7、図 2-12 に示す。



2 産業の現況

表 2-7 瀬戸内海沿岸 11 府県における府県別入港船舶、貨物利用状況

府 県 等	入港船舶数 (千隻)			入港船舶総トン数 (百万トン)			港湾貨物取扱量 (百万トン)		
	(H27)	(H26)	(H25)	(H27)	(H26)	(H25)	(H27)	(H26)	(H25)
全 国	3,596	3,719	3,760	3,755	3,711	3,722	2,810	2,881	2,900
大 阪	67	71	73	186	192	194	154	164	162
兵 庫	196	201	203	274	271	270	188	185	183
和 歌 山	51	51	56	47	51	53	41	45	47
岡 山	110	121	116	114	118	120	102	111	109
広 島	527	541	547	178	178	178	113	116	114
山 口	135	135	138	115	109	115	116	112	120
徳 島	11	17	17	25	24	25	18	18	18
香 川	170	175	187	85	87	95	56	60	65
愛 媛	218	221	230	97	95	95	76	76	72
福 岡	107	110	109	212	196	193	171	175	174
大 分	83	86	87	125	124	123	117	121	122
瀬戸内海 (対全国比%)	1,676 (46.6)	1,727 (46.4)	1,764 (46.9)	1458 (38.8)	1,444 (38.9)	1,461 (39.3)	1,152 (41.0)	1,182 (41.0)	1,186 (40.9)

出典：「港湾統計（年報）」（国土交通省）

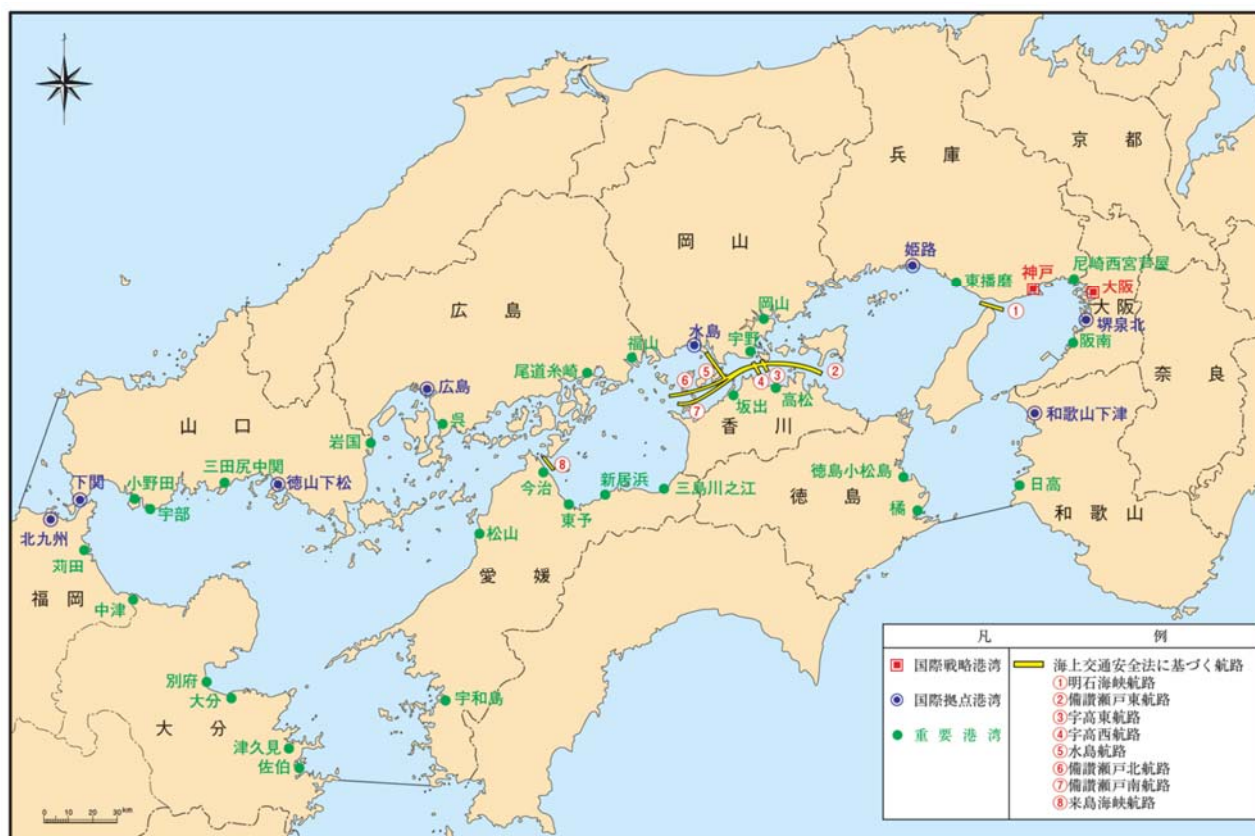
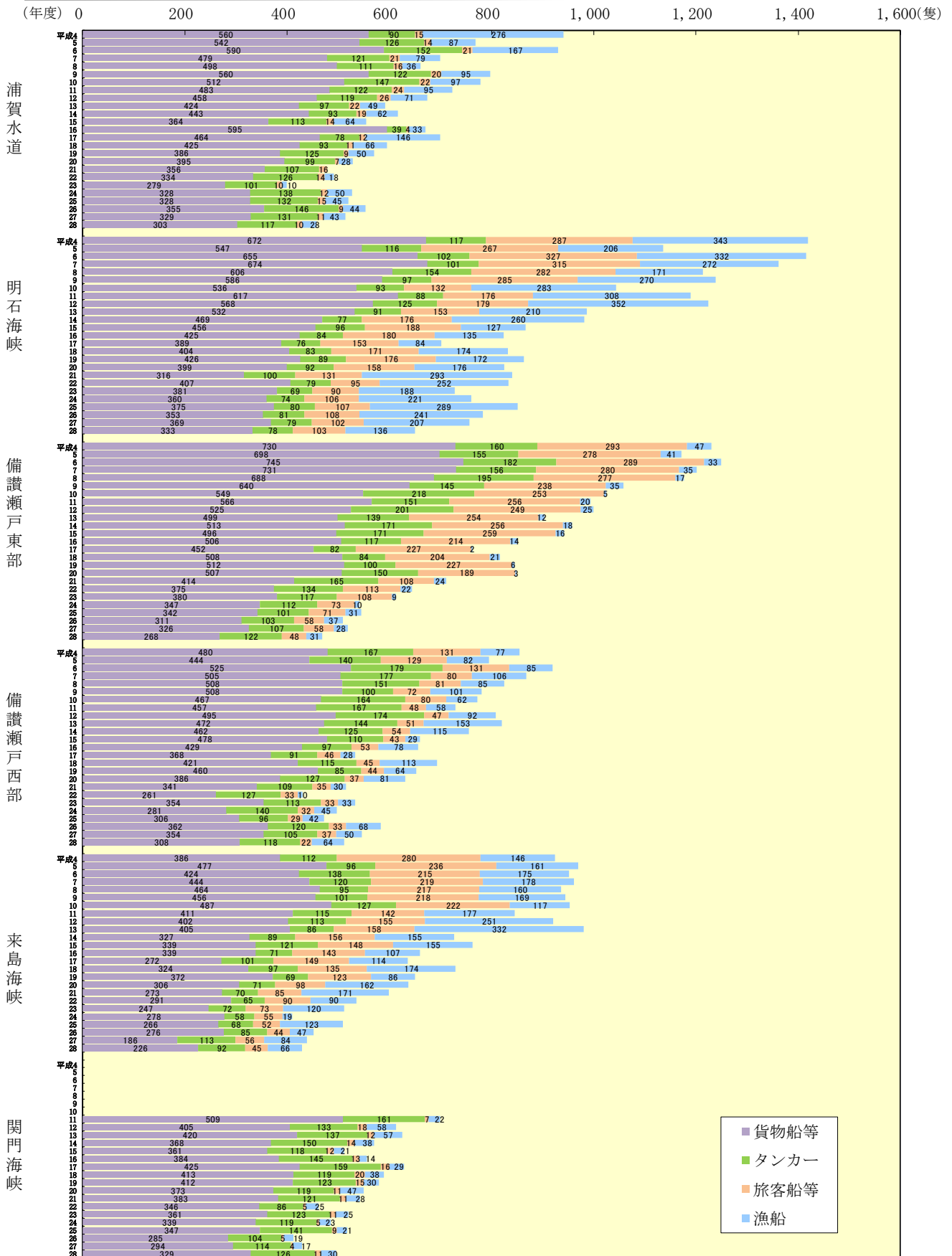


図 2-12 瀬戸内海の港湾・航路(平成 29 年 12 月末現在)

2 産業の現況



注) 平成4年～10年度の関門海峡の値は出典資料に掲載されていない。

出典：海上保安庁広報資料等

図2-13 主要狭水道別通航船舶の隻数の推移(1日平均)

表 2-8 航路別管制船舶通航状況（平成 28 年 1 月～12 月）

(単位：隻)

巨船舶等種別 国籍	総計		巨				大				標準				巨大				船舶		物		件 航 船				
	計	日本船	合計		危険物積載船		危険物積載船を 除く巨船舶		合計		危険物積載船		危険物積載船を 除く巨船舶		計		日本船		外国船		計	日本船		外国船			
			日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船	日本船	外国船							
合計	121,385	65,959	55,426	22,040	2,448	19,592	4,843	830	4,013	17,197	1,618	15,579	72,892	42,540	30,352	1,102	33	1,069	71,790	42,507	29,283	24,308	18,850	5,458	2,145	2,121	24
浦賀水道	28,987	11,407	17,580	8,967	804	8,163	1,959	296	1,663	7,008	508	6,500	13,686	5,895	7,791	499	13	486	13,187	5,882	7,305	6,320	4,694	1,626	14	14	0
中ノ瀬	10,252	3,976	6,276	3,258	209	3,049	944	95	849	2,314	114	2,200	5,007	2,429	2,578	196	9	187	4,811	2,420	2,391	1,981	1,332	649	6	6	0
伊良湖水道	20,848	6,365	14,483	4,467	388	4,079	784	205	579	3,683	183	3,500	13,486	3,569	9,917	115	3	112	13,371	3,566	9,805	2,837	2,361	476	58	47	11
明石海峡	12,485	8,937	3,548	1,731	340	1,391	520	87	433	1,211	253	958	7,728	6,020	1,708	89	2	87	7,639	6,018	1,621	2,846	2,407	439	180	170	10
備讃瀬戸東	11,885	8,944	2,941	1,144	221	923	217	49	168	927	172	755	7,720	6,217	1,503	46	2	44	7,674	6,215	1,459	2,992	2,477	515	29	29	0
宇高東	44	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	5	5	0	38	38	0	1	1	0
宇高西	37	30	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	8	7	0	0	0	15	8	7	21	21	0	1	1	0
備讃瀬戸北	5,788	4,051	1,737	721	150	571	152	47	105	569	103	466	3,895	3,005	890	37	1	36	3,858	3,004	854	1,157	881	276	15	15	0
備讃瀬戸南	5,935	4,464	1,471	484	90	394	55	2	53	429	88	341	3,860	3,048	812	27	1	26	3,833	3,047	786	1,577	1,312	265	14	14	0
水島	12,731	8,685	4,046	767	178	589	195	49	146	572	129	443	10,911	7,581	3,330	67	2	65	10,844	7,579	3,265	1,050	923	127	3	3	0
来島海峡	12,393	9,056	3,337	501	68	433	17	0	17	484	68	416	6,579	4,763	1,816	26	0	26	6,553	4,763	1,790	3,489	2,404	1,085	1,824	1,821	3

注) 準巨大船とは、海上交通安全法第 22 条第 2 号の船舶をいう。
 出典：『海上保安統計年報』（海上保安庁、第 67 巻）